

令和6年度 第2回高梁市在宅医療・介護連携推進協議会次第

日 時 令和7年2月7日（金）19時～

場 所 高梁市役所 2階保健センター

1 開 会

2 あ い さ つ

3 協 議 事 項

(1) 令和6年度の事業報告

(2) 令和7年度に向けての課題と方向性

次年度の市民公開講座の日程 令和7年11月9日（日）PM

4 そ の 他

5 閉 会

高梁市在宅医療・介護連携推進協議会委員名簿

令和6年4月1日～令和8年3月31日

◎会長 ○副会長

No.	所属及び役職名	氏名	備考
1	高梁医師会 会長	◎ 仲田 永造	仲田医院
2	高梁医師会 理事	鶴見 尚和	成羽病院
3	高梁医師会 理事	野村 良明	野村医院
4	高梁医師会 理事	松浦 隆彦	まつうらクリニック
5	高梁歯科医師会	樋口 将	樋口歯科
6	岡山県薬剤師会高梁支部	笹川 隆弘	落合薬局
7	(一社)岡山県介護支援専門員協会高梁支部 (一社)岡山県介護支援専門員協会 理事)	○ 草野 貴史	グリーンヒル順正
8	高梁市社会福祉法人連絡会	磯村 葉子	グリーンヒル順正
9	岡山県看護協会高梁支部	高下 公美子	成羽病院
10	岡山県栄養士会高梁支部	荒木 枝里	高梁中央病院
11	リハネット高梁	安井 仁見 代理 植田 崇弘	成羽病院
12	実務者部会 部会長	三尾 あゆみ	高梁中央病院
13	実務者部会 副部会長	佐藤 剛紀	大杉病院
14	吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護学科長	竹崎 和子	吉備国際大学
15	岡山県備北保健所 保健課 課長	猪元 信子	備北保健所
16	高梁かんごねっと コーディネーター	原田 邦栄	高梁医師会
17	高梁市消防本部 警防課 課長	内田 宏範	消防本部警防課

事務局

健康福祉部 (地域包括支援センター)	次長 所長)	内岡 登美香
健康福祉部 地域包括支援センター	所長補佐	赤木 日出美
〃	〃 主幹	江藤 悦子
〃	〃 主幹	倉橋 重昭
〃	〃 保健師	中村 友樹

内規

(平成25年5月20日制定)

高梁市在宅医療・介護連携推進協議会設置要綱(内規)

(設置)

第1条 在宅医療及び介護を一体的に提供できる支援体制の構築を検討することを目的とし、高梁市地域包括支援センター運営協議会要綱(平成18年高梁市告示第85号)第9条に基づき協議会として、高梁市在宅医療・介護連携推進協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 協議会は、次の事項について協議及び検討を行う。

- (1) 地域の医療・介護の資源の把握に関する事。
- (2) 在宅医療・介護連携の課題の抽出及び対応策の検討に関する事。
- (3) 切れ目のない在宅医療及び在宅介護の提供体制の構築推進に関する事。
- (4) 医療・介護関係者の情報共有の支援に関する事。
- (5) 在宅医療・介護連携に関する相談支援に関する事。
- (6) 医療・介護関係者の研修に関する事。
- (7) 在宅医療・介護連携に関する地域住民への普及啓発に関する事。
- (8) 在宅医療・介護連携に関する他の自治体等との連携に関する事。

(組織)

第3条 協議会は、関係団体の代表者、関係行政機関の職員その他市長が必要と認める者をもって構成する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。

- 2 委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 公職にあることにより選任された委員は、その職を退いたときに委員の職を失うものとする。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長1人及び副会長若干人を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 協議会の会議は会長が招集し、その議長となる。

(専門部会)

第7条 第2条の所掌事務に関する具体的事項について調査及び研究するため、協議会に専門部会(以下「部会」という。)を置くことができる。

2 部会は、会長が委員並びに医療、介護及び福祉関係者等の中から指名した者で構成する。

3 部会に部会長及び副部会長を置き、会長がこれを指名する。

4 副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(意見の聴取)

第8条 協議会及び部会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その説明を受け、または意見を聴取することができる。

(庶務)

第9条 協議会の庶務は、地域包括支援センターにおいて処理する。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成25年5月20日から施行する。

附 則

この要綱は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和2年4月1日から施行する。

附則

この要綱は、令和4年4月1日から施行する。

令和6年度 高梁市在宅医療・介護連携推進事業報告

全体目標	住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療と介護の関係者が協力して、在宅医療と介護の連携強化を図る。
重点目標	・医療と介護の関係者が協働・連携を図り、在宅医療と介護を一体的に提供できる。
	・ICTの利活用によって、業務の効率化や多職種間の連携を図ることができる。
	・人生の最終段階における望む場所での看取りを行えるように、医療・介護関係者が、対象者本人と人生の最終段階における意思を共有し、それを実現できるように支援できる。

今年度の評価	医療機関及び介護事業所等がICTの利活用により業務の効率化、多職種連携の強化を図り、医療・介護サービスの質の向上につなげていくことは重要である。今年度は、久々の集合形式での多職種連携研修会の開催を企画した。今後も引き続き専門職の顔の見える関係作りを強化していく。
	今年度より、ラインワークスによる情報共有を全市的に開始した。87事業所・113IDで開始し、1月末現在で100事業所・129IDで利用となっている。ラインワークスの利用についてアンケートを実施。情報共有・情報連携の機会が増えたと感じる事業所の割合が86.4%であった。また、業務効率が上がったと感じる事業所割合も、81.0%で高い割合となるなど、医療、介護従事者の確保が課題となっている昨今、ICTの利活用による業務の効率化、連携強化により医療、介護サービスの充実が図れている。
	人生会議（ACP）について、生きがいサービスなどの各団体への講話や行政放送などにより市民に対して普及・啓発を図った。また、医療・介護市民公開講座では、市内の医療・介護関係者の出演による寸劇にて、人生会議の理解・促進に努めている。人生会議の認知度が高まり、本人が望む医療やケアが進められることが期待できる。

計 画		実 績
今年度の主な事業	1 令和6年度高梁市医療・介護市民公開講座 第1部 在宅医療・介護連携の普及啓発 第2部 救急医療のかかり方、上手な医療のかかり方について	令和6年度高梁市医療・介護市民公開講座 第1部 人生会議の普及・啓発（寸劇上映） 第2部 救急現場の視点から考える～ACPや救急医療のかかり方～（講演）
	2 人生会議（ACP）の普及・啓発	・各種団体への講話 ・行政放送 ・高梁市医療・介護市民公開講座にて、寸劇を通じて人生会議（ACP）を啓発 等
	3 広報誌「広報たかはし」への記事掲載	令和6年度高梁市医療・介護市民公開講座の実施について
	4 ICTを活用した医療・介護連携システムの在り方検討	・フォローアップミーティングを実施（7月、12月） ・活用状況のアンケート調査及び聞き取り調査の実施を予定
	5 実務者部会実施事業 ・多職種連携研修会 ・医療介護地域ネットワークシステムの検討	・令和7年2月 多職種連携研修会 ・ICTを活用した医療介護連携システムの検討
	6 高梁かこんねっと（高梁医師会）委託事業 ・専門職のスキルアップと人材育成	・令和6年11月 認知症研修 ・令和7年12月 皮膚・排泄ケア研修 ・令和7年1月 摂食・嚥下研修

会議	第1回	令和6年7月5日（金） ・令和6年度の事業計画について	高梁市役所 2階保健センター
	第2回	令和7年2月7日（金） ・令和6年度の事業報告 ・令和7年度に向けての課題と方向性	高梁市役所 2階保健センター

(1) 令和6年度高梁市医療・介護市民公開講座

開催日時 令和6年11月17日(日) 13時30分～15時40分

開催場所 高梁総合文化会館 大ホール

内容 第1部 寸劇上映「人生会議 ～自分らしく生きるために～ パートⅢ」

第2部 「救急現場の視点から考える～ACP や救急医療のかかり方～」

講師：岡山大学学術研究院医歯薬学域 救命救急・災害医学講座

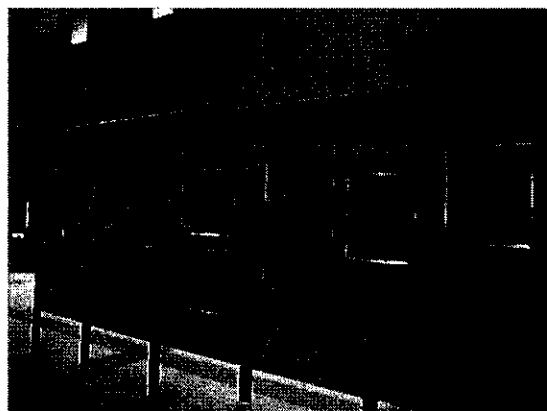
教授 中尾篤典 先生

参加者 420人

寸劇



医療・介護現場で働く人写真展



(2) 人生会議 (ACP) の普及・啓発

ACP (人生会議) の取り組みを知っている (市民公開講座参加者アンケートより)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
実績値 (%)	50.2	28.9	44.9	37.0	69.0	40.2
回答数	203	456	276	230	190	133

・吉備国際大学看護学科4年生 (令和6年4月12日 参加者38名)、有漢気楽会 (令和6年8月28日 参加者18人)、備中生きがいデイサービス利用者 (令和6年11月20日、27日 参加者35人) へ人生会議 (ACP) についての講話及び「自分らしく生きる」ための話し合いガイド・話し合い記入シート記入の実践

- ・高梁市医療・介護市民公開講座にて、寸劇を通じて人生会議 (ACP) を啓発
- ・行政放送にて、人生会議 (ACP) について、普及・啓発
- ・65歳年齢到達者へ、肺炎球菌予防接種のお知らせとともに ACP シートを郵送 (年間約400名)

(4) ICT を活用した医療・介護連携システムのあり方検討

オンラインワークスを活用した新たなネットワークシステムの検証

- ・令和6年4月から87事業所・113IDの参加で全市運用開始 (現在100事業所・129ID)
- ・フォローアップミーティング (7/11・12、12/3・5)
- ・運用アンケート調査 (1月) および聞き取り調査 (予定)
- ・在宅医療・介護連携推進協議会 (7/5、2/7)、実務者部会 (6/20、12/20) で協議

(5) 実務者部会実施事業

○会議開催

開催日	会議名	参加人数	内容
R6.6.20(木)	実務者部会(第1回)	14名	<ul style="list-style-type: none"> ・医療介護地域ネットワークシステムについて ・医療・介護市民公開講座について ・多職種連携研修会について
R6.9.19(木)	医療・介護市民公開講座寸劇打合せ	3名	
R6.10.16(水)	医療・介護市民公開講座寸劇撮影	10名	
R6.10.16(水)	医療・介護市民公開講座寸劇映像確認	7名	
R6.12.20(金)	実務者部会(第2回)	14名	<ul style="list-style-type: none"> ・医療介護地域ネットワークシステムについて ・多職種連携研修会について ・医療・介護市民公開講座について
R6. 3	実務者部会(第3回) (予定)		<ul style="list-style-type: none"> ・医療介護地域ネットワークシステムについて ・多職種連携研修会について ・令和6年度の事業報告 ・令和7年度に向けての課題と報告

○多職種連携研修会(予定)

日 時：令和7年2月14日(金) 19:00~20:30

開催方法：集合形式

内 容：「利用者側に寄り添ったコミュニケーション ～マニピュレーションの視点から～」

講 師：兵庫大学 生涯福祉学部 社会福祉学科長 小倉 毅 先生

参 加 者：市内医療・介護・福祉関係者

(6) 高梁かんごネット委託事業

1. 地域医療推進に向けた体制強化、関係機関の連携構築

- 1) 高梁市在宅医療・介護連携推進協議会及び実務者部会、地域包括ケアシステム検討委員会、看護師等確保検討部会、看護協会高梁支部役員会等に参加
- 2) かんごねっと新聞の発行（6月、10月、2月）

2. 看護職、介護職の地域医療スキルアップと人材育成

1) 企画会議

開催月日	開催場所	出席者	協議内容
5月14日(火) 17:30~19:00	高梁医師会 2階会議室	9人	・スキルアップ研修について ・人材確保のための学生へのPRについて (高等学校訪問) その他、情報交換
8月13日(火) 17:30~19:00	高梁医師会 2階会議室	7人	・スキルアップ研修について ・人材確保に向けた病院見学ツアーについて ・わくわく子どもフェスタ その他、情報交換
11月12日(火) 17:30~19:00	高梁医師会 2階会議室	8人	・スキルアップ研修について ・次年度の研修内容について ・その他
2月18日(火) 17:30~19:00	高梁医師会 2階会議室		・今年度の研修についての評価 ・次年度の計画について ・その他

*各施設から研修についての提案を受け、計画、実施、評価を行う。

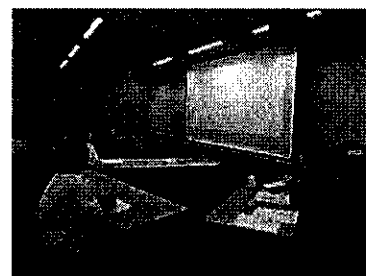
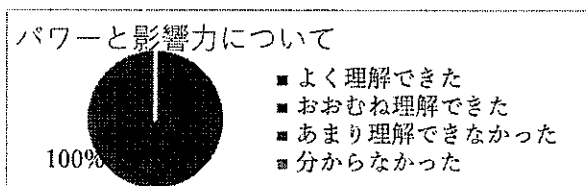
2) 看護管理者研修

講師：吉備国際大学保健医療福祉学部 看護学科長 竹崎 和子氏

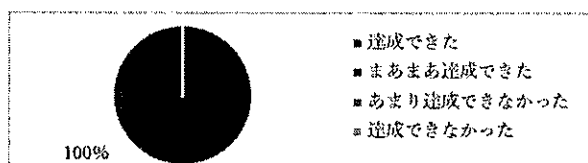
開催日時	開催場所	参加人数	内容
5月13日(月) 18:00~19:30	高梁市役所 3階会議室	4名	パワーと影響力について
10月8日(火) 18:00~19:30	高梁市役所 3階会議室	2名	看護管理者のリーダーシップ

* 今年度は、看護師長のみを対象とした

本日の学習内容が理解できましたか



受講して、目的が達成できましたか



*受講しての感想

- ・褒めることを大事にし、スタッフのやる気を伸ばしながら芯の通った対応ができるようになりたい
- ・「師長がいると安心して仕事ができます」と言われる存在でありたい、そうなりたい
- ・「師長がいないときも大丈夫です、任せてください」と言ってくれるスタッフを育てたい
- ・自分の感情をコントロールし、考え方をスタッフへしっかりと伝えられるようにする
そのことで、病棟の看護を変えていけるような管理者になりたい
- ・トラブルが発生した時に客観的に判断し、冷静に対応していきたい
- ・少人数であり、しっかり先生と話ができて満足

3) 新入職者研修

講師：吉備国際大学保健医療福祉学部 看護学科長 竹崎 和子氏

開催日時	開催場所	参加人数	内容
4月12日(金)	高梁市図書館	5名	「自分軸」を作る
9月11日(水)	高梁市図書館	3名	コミュニケーション技法
3月3日(月)	高梁市図書館	名	「1年間の学びについて」

*参加者感想

- ・改めて自分を見つめ直す機会となり、更に目標が明確になった
- ・自分軸を大切に、人の気持ちに寄り添えるようになりたい
- ・頑張ろうとするのは大切だけど無理をせず、ゆっくり働いていこうと思った
周りの人の助けも大切にしたい
- ・辛いことがあっても、自分だけではないんだと感じた
悩みを相談しながら、頑張りたい、自分は自分なりに頑張れると思った
- ・エゴグラムで自分を分析することができ、弱い部分を見せて良かった
具体的にどのようにしたら強みに変えることができるか考えていきたい
先輩に相談したり、支えてもらいながら自分は、どうしたいかどう向き合いたいかが
明確にし、患者さんと真剣に向き合っていける看護師になりたい



4) プリセプター研修

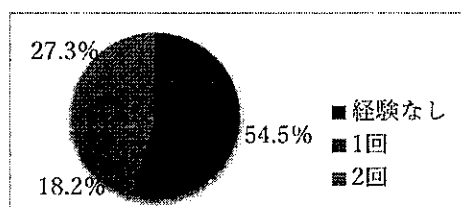
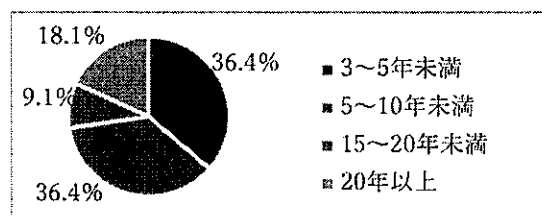
講師：吉備国際大学保健医療福祉学部 看護学科長 竹崎 和子氏

開催日時	開催場所	参加人数	内容
5月23日(木) 17:30~19:00	高梁市図書館	11名	プリセプターシップとは プリセプターの役割/新人看護師の特徴
10月15日(火) 17:30~19:00	高梁市図書館	8名	「こんな時どうする？」

*参加者について

看護師経験年数は？

プリセプターの経験は？



- ・まなびを参考にチーム全体で指導したいと感じた
- ・リフレクションを大事にし、プリセプターの立場になって、今回のポイントを踏まえて指導していきたい、プリセプティと達成感を共有して「ありのまま」の姿で
- ・新人が話しやすい環境が必要であると感じた、話しやすい環境作りをしていく
- ・多面的にみていくこと、その人の特性をとらえながら対応していきたい。
- ・同じ世代だからこそ、分かり合えることや伝えにくいこともあると思うが、自分が伝えたいことを大切にしながら共に成長していけるよう頑張る

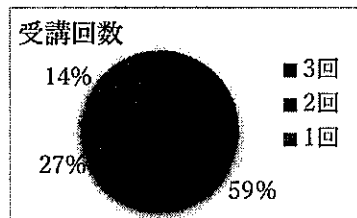
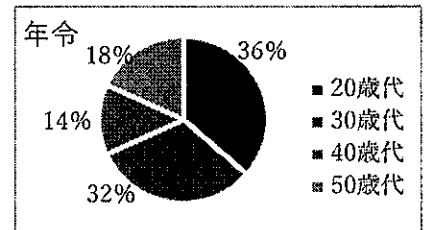
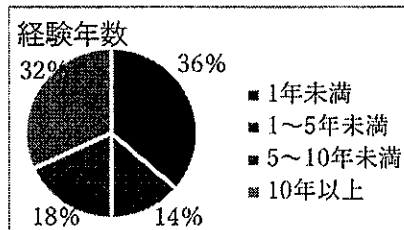
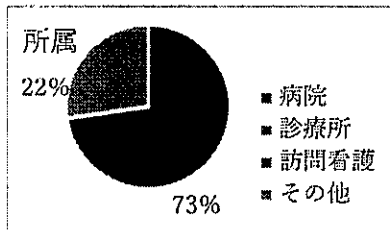
5) スキルアップ研修

①フィジカルアセスメント研修

講師：岡山医療センター リソースナース室 中山 智代美 氏
(急性・重症看護専門看護、集中ケア認定看護師資格取得)

開催日時	開催場所	参加人数	内容
7月6日(土) 13:30~15:30	吉備国際大学 地域医療福祉 センター (スキルラボ)	22名	フィジカルアセスメント～基礎編～
8月3日(土) 13:30~15:30		16名	フィジカルアセスメント～呼吸編～
9月21日(土) 13:30~15:30		15名	フィジカルアセスメント～循環器編～

*参加者について



*研修に参加しての感想

- ・日頃、おこなっているバイタル測定や観察に意識づけができた良い学びの時間だった
- ・長年看護師という仕事を行ってきたが、なかなか研修参加ができなかった今の時代に合った看護を学ぶことができた
- ・昨年も参加したが、呼吸音判別は難しいしかし、昨年よりは呼吸音が少し理解できたと思う
- ・新人として、知識を得られる場を設けていただき、本当にありがたい病院で自分一人が新人なので、積極的に講義を受けることができて良かった
- ・基礎をふり返ることができて、よかった
- ・呼吸器疾患の病態と、その疾患におこる呼吸音の変化を予想しながら学ぶことができた
- ・1回目の講義を受講以降、意識して呼吸回数をみている、改めて基礎を学ぶことができた現場で実際にできる方法やアセスメントできる内容で、とてもわかりやすかった現場にもどって実践していきたい、業務に活かしていきたい

②認知症研修

日時：11月19日(火) 18:00~19:00

場所：高梁市成羽複合施設 たいこまるプラザ(伊藤記念ホール)

内容：講演「アルツハイマー病治療の新時代 ~わかるものと、かわらないもの~」

講師：しづい病院脳神経内科部長

(高梁市国民健康保険成羽病院もの忘れ外来)

辻 拓司 氏

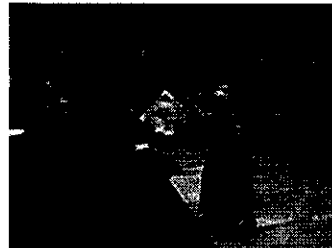
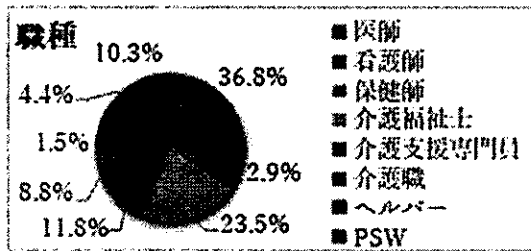
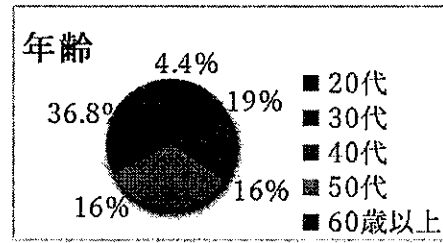
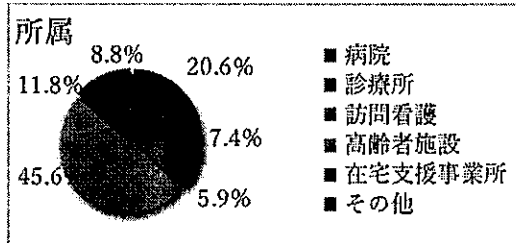
看護部主任 認知症ケア専門士

土師 みちる 氏

作業療法士 NCGG 認知コグニサイズ実践者

郷原 慎吾 氏

アンケート結果 72名参加：アンケート回収率94.4%



*受講しての感想

- ・治療薬だけでなく、コグニサイズ実践があり、わかりやすかった、自宅、施設でも実践したい
- ・時々介護に不安をもつこともあったが、内容を役立てたい
- ・セクハラについて、質問し参考になった
- ・認知症のかたの対応、日々苦慮しており、本日の講義を聴いて少し前が開けたような気がする
- ・認知症の方への理解を深めることができ、寄り添うことが大事だと感じた
- ・「一人の100歩より、100人の一歩」の言葉が印象に残った
- ・ケアするとき、利用者の立場にたち、共感と受容そして信頼関係ができるように介助していく
- ・一人でケアをするよりも、他の職員に相談しながらよいケアを目指していきたい
- ・居心地の良い環境づくりを目指し、スタッフ全員で勉強会を実施し統一したケアを実践していく
- ・自分自身にもゆとりをもち、愛情も大切にしたい

③皮膚・排泄ケア研修

日時：12月18日(水) 18:30~19:30

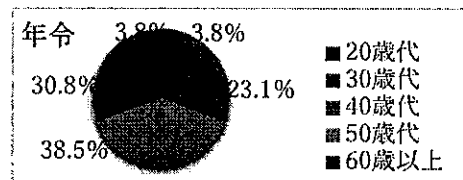
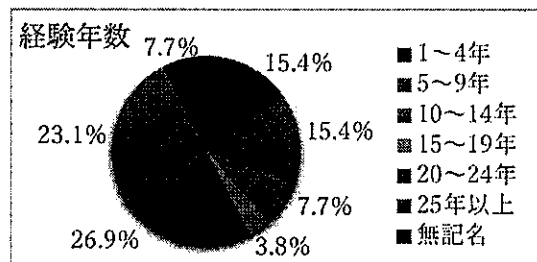
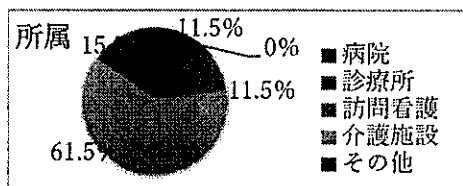
場所：高梁市役所 3階会議室

内容：「おむつを ちょっと 深掘してみませんか」

講師：高梁市国民健康保険成羽病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 丸橋 理絵氏

アンケート結果 26名参加：アンケート回収率100%

*参加者について



*適正なおむつの選び方について、理解できましたか

- ・尿量、尿回数を観察し、その人にあった紙パンツを使用する必要性があると思った。デイサービスなどでは、家族様へも情報提供し、その人にあったものを準備していただくことが大切だと感じた。なぜ?その部分の説明がきちんとできるようにしていきたい。
- ・なんとなく、オムツを選んでいたが、個々借用者にあわせて選ぶ大切さを理解できた。身体に合うものを使用することで、日常生活がより良いのになるとわかった。次回、店頭で確認する。
- ・資料もわかりやすく、説明もわかりやすかった。実演と説明で、理解しやすかった。
- ・パットの薄い部分を尿道口に当てることを知り、学びになった。

*おむつの気持ちいい装着方法について、理解できましたか

- ・実演があり、わかりやすかった。
- ・実際にオムツを穿いたので、よく理解できた。両親にも伝えたいと思った。
- ・基本的なことが理解できた。施設に持ち帰り、伝達し活用したい。
- ・パットの重ね当てをしている現状なので、検討していきます。



④摂食・嚥下研修(多職種研修会)

日時：令和7年1月21日(火) 18:30~19:30

場所：高梁市役所 3階会議室

内容：講演「在宅介護でできる経口摂取への支援の実践」

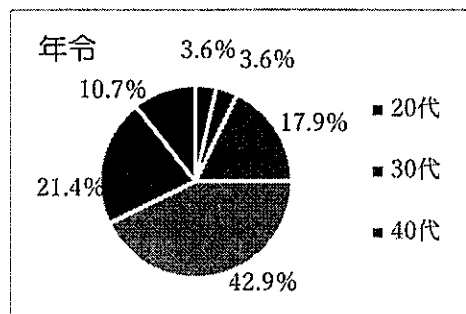
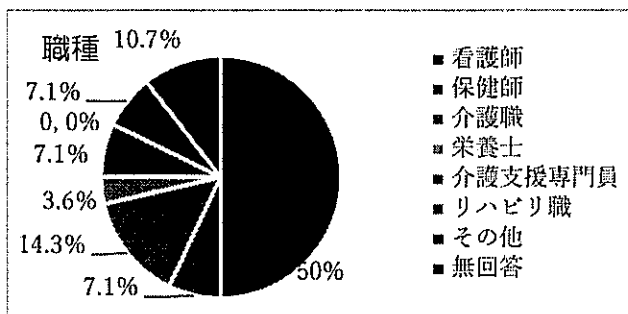
講師：岡山県看護協会 在宅ケアアドバイザー

摂食嚥下障害認定看護師 平元 美由紀氏 (訪問看護ステーション 晴)

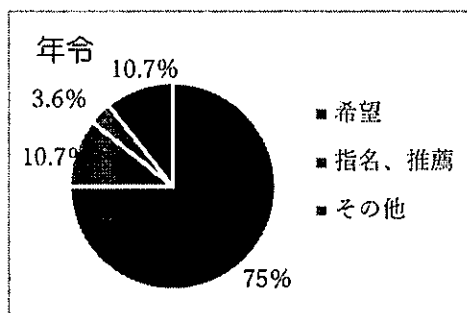
講演前 18:15~18:25 手洗い方法と消毒剤紹介 丸石製薬株式会社

アンケート結果 28名参加：アンケート回収率89.3%

1. 自身について



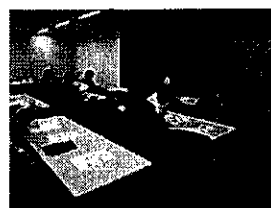
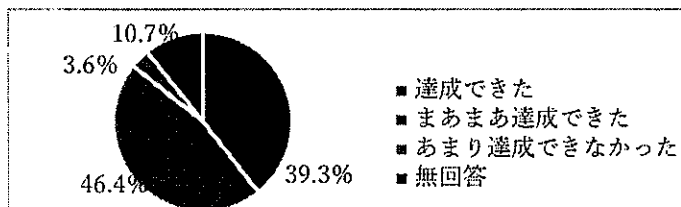
2. 参加動機



《その理由》

- 施設内でも摂食嚥下に問題を持つ入所が増え、少しでも解決策があれば聴きたいと思った
- 訪問している利用者さんの支援に役立つと思った
- 嚥下障害の利用者がいたが、管理栄養士もSTもいなか、主治医や通所RH担当者と連携し食事支援を行った事例があった。その事例の振り返りもあり参加した。
- 重度認知症患者デイケアに勤務しており、体重減少が進んでいる利用者の食事摂取について学びたかった
- 訪問看護利用者で、低栄養、体動困難、介護不足等で入退院を繰り返す人があり、摂食方法のヒントを得る為
- 認知症デイサービスで、食事摂取量が減少した利用者さんへの援助方法を学びたい
- 入職間もないため、知識を増やしたい
- 認知症で食が進まない方の介護のヒントを得るため
- 普段、摂食・嚥下に関わっているため、参考にしたかった

3. あなたの研修の目的は、達成できましたか？



《その理由》

- 訪問を増やす、関わる時間を増やす、アドバイスを増やすなど色々な角度から支援する必要性を感じた
- 利用者さんの食事について、チーム全体で考えることが必須
- 本人、家族に寄り添うことが非常に大事、KTバランスチャートも参考にしたい
- 食事は、おいしくて楽しいものであるという基本がよくわかった
- 自身の父が施設でお世話になり、楽しみ程度の食事も考えて下さり、改めて感謝する
- 4事例の興味深い事例を聴くことができ、モチベーションアップした
- 食事介助時、誤嚥には注意しているが、摂取する方の食べたいという思いも大事にします
- 少量でも、高カロリーのもを提供したり、姿勢にも十分注意していく
- 補助食品についても知りたかった

⑤緩和ケア研修会（予定）高梁中央病院と共催

日時：令和6年2月6日（木） 17:30～18:30

開催：オンライン研修（ZOOM）

内容：「がん患者の倦怠感と看護ケアについて」

講師：川崎医科大学附属病院

特定看護師 オンコロジナーズ 上野 絵美 氏

◀ 講演の感想 ▶

6) 訪問看護ステーションの連携構築

★訪問看護ステーション間の情報交換会

開催日時	開催場所	参加人数	内容
6月13日(水) 17:30～	高梁医師会 2階会議室	7名	・R6年度 スキルアップ研修について ・情報交換
9月12日(木) 18:00～	高梁医師会 2階会議室	6名	・スキルアップ研修会報告 ・情報交換 ・理事会報告（やまびこ閉鎖について）
12月12日(木) 18:00～	高梁医師会 2階会議室	10名	・スキルアップ研修会報告 ・情報交換 ・岡山県看護協会専務理事、地域包括ケア推進室長出席 → 地域特性に応じた連携体制の構築—地域部会による「顔の見える地域連携体制」の強化として、説明を受ける。 (長田市議会議員も出席)
3月13日(木) 18:00～	高梁医師会 2階会議室	予定	

→ 地域特性に応じた連携体制の構築—地域部会による「顔の見える地域連携体制」の強化
上記に関しては、令和7年度より看護協会の主催、指導のもと会が運営される

7) 「中山間地域における看護職員確保推進の体制整備事業」の企画会議 事業概要を添付

開催日時	開催場所	参加人数	内容
7月4日(木) 13:00~	高梁医師会 2階会議室	3名	・体制整備事業の概要説明、事前協議 備北保健所所長より
7月23日(火) 14:00~	備北保健所 栄養指導室	10名	・岡山県医療推進課参事より看護職員状況説明 ・中山間地域看護職員確保にむけて
11月6日(水) 14:00~	備北保健所 栄養指導室	14名	・R6年度高梁市事業計画報告、市内病院状況 ・R6年度新見市事業計画紹介
1月14日(火) 9:30~	高梁市役所	8名	・看護職員応援交流会開催について計画立案 ・看護のお仕事魅力情報発信誌の原稿作成

岡山県看護協会資料2
高梁市検討部会 2024.11.11

令和6年度中山間地域における看護職員確保推進のための体制整備事業

実施計画書

事 業 概 要	<p>本県の中山間地域3医療圏(高梁・新見、真庭、津山・英田)の看護職員従事者数は県全体の14.1%(4,221人、令和4年末従事者層)で、その47.4%が50歳代以上である。今後、少子超高齢社会、人口減少が進んでいく中で、中山間地域における医療体制の維持が困難になることが予測される。中山間地域の医療提供体制を継続維持し、地域包括ケアシステムを推進するには、看護職の確保(次代を担う若い看護職の確保)が喫緊の課題である。</p> <p>そのため、今年度は高梁・新見医療圏内で事業を展開するため事業調整役(コーディネーター)を配置し、若い看護職のサポートチームによる企画運営により高校生等への出前看護職体験学習、看護学生との交流会等を開催し、地元での看護の魅力を発信する。</p> <p>また、遠隔医療や医師とのタスク・シフト/シェアを可能にするために専門性の高い看護職の配置・確保を推進していくことが重要である。そのために、地域で一体的に専門性の高い看護職の確保に取り組むとともに、地域での活躍等の好事例を普及啓発することで、中山間地域の看護職員及び専門性の高い看護職の確保につなげる。</p>
事 業 内 容	<p>中山間地域への看護職員確保推進のための体制づくりのため、以下の事業を実施する。</p> <p>(1) 事業の調整役(コーディネーター)を1名以上配置し、事業の調整・推進、マネジメントの実施</p> <p>(2) 看護職員確保推進実務者(サポートチーム)企画による高校生等への出前看護職体験学習・相談会の開催及び看護学生と地域の看護職との交流会等の開催</p> <p>①看護職員確保推進実務者(サポートチーム)の開催 サポートチームメンバー(高梁・新見圏域)8人 2回</p> <p>②高校生等への出前看護職体験学習・相談会の開催 2回</p> <p>③看護学生と地域の看護職との交流会の開催 2回</p> <p>(3) 専門性の高い看護師を増やすための相談・支援 ・高梁・新見医療圏の認定看護師、特定認定看護師、特定行医研修修了者の施設内での役割等についての話し合い</p> <p>(4) 中山間地域に専門性の高い看護職の配置・活用の推進を図るため、医師等の協働による好事例集を作成し活動を普及啓発 ・岡山県内における専門性の高い看護職の活用における好事例の収集及び事例集の作成</p> <p>(5) へき地医療拠点病院等で専門性の高い看護職が地域・施設内等で活動が展開できるよう支援、調整 ・専門性の高い看護職を地域の困難な事例に(診療報酬対象にならない事例)同伴訪問等により助産・支援の実践から体制を考える。</p>

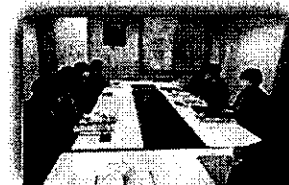
8) 人材確保のための学生へのPR

(1) 看護学校訪問

月日	訪問先	対応者	訪問者
4月23日 (火)	吉備国際大学	竹崎看護学科長	さきがけ 井村看護部長 松本看護課長 大杉病院 熊本看護総師長 成羽病院 高下看護部長 高梁中央 宮本人事部長 高梁市役所 惣田氏 清水氏 かんごねっと 原田
	県立真庭高等学校	藤井教頭	
	新見公立大学	安藤老年看護学講師 川下母性学講師	
	岡山県立大学	佐々木准教授	
4月25日 (木)	川崎医療福祉大学	中新特任教授	さきがけ 井村看護部長 松本看護課長 高梁中央 森看護部長 大杉病院 青木事務長代理 高梁市役所 惣田氏 清水氏 かんごねっと 原田
	倉敷翠松高等学校	小泉看護教務課長、学科長	
	倉敷看護専門学校	山田専任教員	
	玉野総合医療専門学校	吉見教務主任	
	川崎医療短期大学	河畑講師	
	旭川荘厚生専門学校	山下教務主任	

*今学生は、ネット検索し自分で就職先を決めている。また、実習先への希望が半数を占めている。(マイナビ、リクナビを利用している。)

*社会人卒で入学している学生も相当数あり、20代後半から30代前半が多いが、40代や50代の学生もいる。成績は社会人の方が良い。



(2) 高等学校訪問

訪問日：7月22日(月)

訪問先	対応者	訪問者
総社南高校	池田進路課長	吉備国際大学 竹崎看護学科長 高梁中央病院 宮本人事部長 高梁市役所 惣田氏 かんごねっと 原田
矢掛高校	横溝進路課長補佐	
興譲館高校	大橋先生	
井原高校	末永先生	
新見高校	岡先生	
共生高校	小林進路指導副課長	
方谷学舎高校	事務長補佐安東先生	
高梁高校	安藤先生	
高梁城南高校	大月進路指導課長補佐	
* 総社高校	オープンスクール訪問不可	

*高梁市の奨学金制度について説明し、看護師を目指している学生に広報をお願いする。

*高梁市内の大学、吉備国際大学について看護学科長より大学紹介。

(3) 病院見学ツアー 5月18日(土) 9:30~15:00

備中高梁駅 2階高梁図書館前 9時30分集合

⇒ さきがけホスピタル9時50分~10時20分視察 ⇒ 成羽病院 10時30分~11時視察

⇒ 昼食(朝日堂) 11時30分~12時30分まで ⇒ 猫城主さんじゅーろーあしあと館

⇒ 大杉病院 13時40分~14時10分視察 ⇒ 高梁中央病院 14時20分~14時50分視察

⇒ 備中高梁駅 15時解散

* 3名参加

2名は、市内在住で吉備国際大学看護学生。（1名は、奨学金利用）

1名は、市外の看護学生。

市外学生の参加理由は、高梁市に興味があったからと言う。

《アンケートから》

- 自分の住んでいる地域の病院について知ることができ、良かった。
大学で、1年間学び、知識をつけたうえで来年も参加したい。
- 市内すべての病院が、きれいで病室もきれいだった。
- 精神科は、少し暗いイメージがあったが、よい意味で病院らしくなく入院してもリラックスして過ごすことができそう、男性看護部長さんだったことも珍しかった。
- 手術室が、広くてすごかった。
- ヘリポートに行けて嬉しかった。
- リハビリについて学べた。
- いろいろ廻れて、将来に役立つことなのでよかった。
- 市内の病院を見学できて、地元病院にも興味が湧いてきた。
- 昼食が、美味しかった。



9) わくわく子どもフェスタ

開催日：6月22日（土） 10:00～14:30

開催場所：高梁栄町商店街

主旨：いろいろな体験を通じて、高梁の未来を担う次世代の子どもたちに医療に興味を持ってもらう。

内容：吉備国際大学、看護学生の協力も得て子ども達に対応してもらう。

看護学生より医療に関するクイズ、看護体験の実践（血圧測定、聴診器使用、包帯法、新生児のお世話体験）が実施された。

高梁の医療に関するパンフレット、奨学金制度紹介パンフレット、白衣を準備し白衣を着用する「なりきり看護師」は人気があった。



10) 吉備国際大学との連携

(1)看護政策論の講義 日時：5月15日（水） 9:30～11:00

場所：吉備国際大学7号館5階公衆衛生看護実習室

対象：4年生（90分）

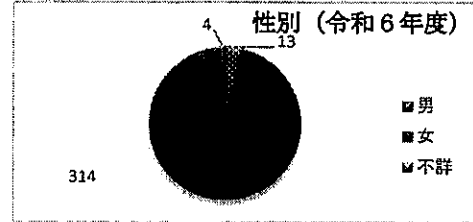
テーマ：①高梁市の行政の取組について 地域医療連携課 清水氏
②高梁かんばんの取組 清水氏より紹介

令和6年度高梁市医療・介護市民公開講座アンケート結果

回答者 331名 (参加者 420名)

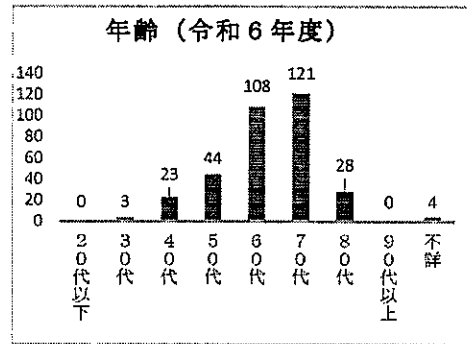
1-1) 性別

男	13
女	314
不詳	4
合計	331



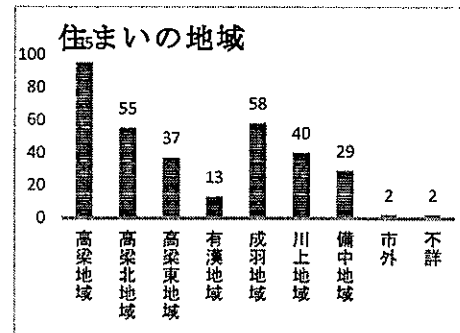
1-2) 年齢

20代以下	0
30代	3
40代	23
50代	44
60代	108
70代	121
80代	28
90代以上	0
不詳	4
合計	331



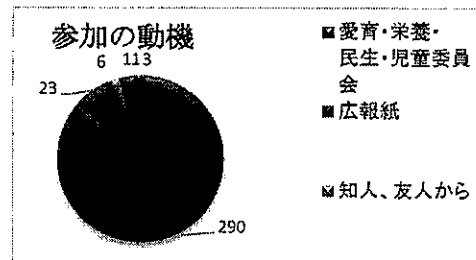
1-3) 住まいの地域

高梁地域	95	29%
高梁北地域	55	17%
高梁東地域	37	11%
有漢地域	13	4%
成羽地域	58	18%
川上地域	40	12%
備中地域	29	9%
市外	2	1%
不詳	2	1%
合計	331	100%



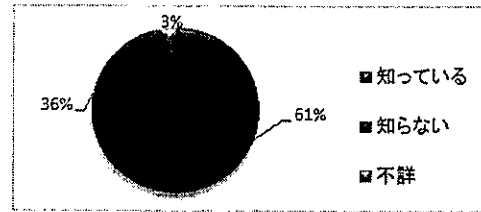
1-4) 参加の動機 (複数選択あり)

愛育・栄養・ 民生・児童委員会	290
広報紙	23
知人、友人から	6
その他	11
不詳	3
合計	333



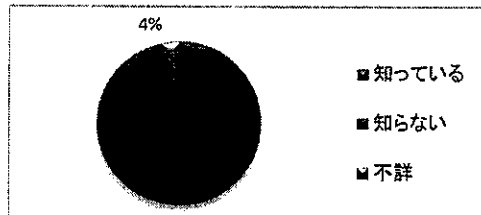
2-1) -1 市内の病院で、退院前から多くの専門職が退院支援に関わっていることを知っていましたか。

知っている	202
知らない	118
不詳	11
合計	331



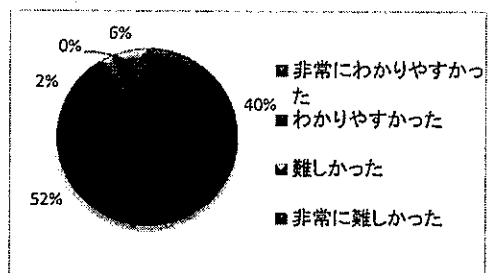
2-1) -2 人生会議 (ACP) について知っていましたか。

知っている	133
知らない	186
不詳	12
合計	331



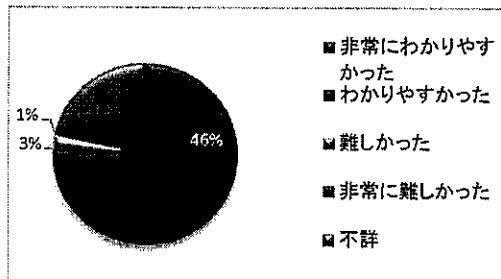
2-1) -3 「人生会議 (ACP)」の説明はわかりやすかったですか

非常にわかりやすかった	132
わかりやすかった	171
難しかった	8
非常に難しかった	1
不詳	20
合計	332



3-1) -1 「救急現場の視点から考える～ACPや救急医療のかかり方～」の内容はわかりやすかったですか

非常にわかりやすかった	155
わかりやすかった	97
難しかった	9
非常に難しかった	2
不詳	70
合計	333



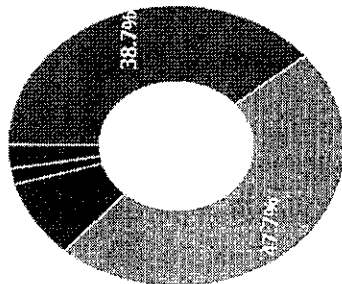
高梁市医療介護 地域ネットワーク

FINE-LINK+で現場がつながる。地域がつながる。

2024年1月12日

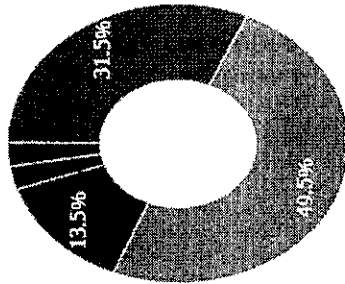
運用アンケート実施結果

1 FINE-LINK PLUSを使ってみて、他の事業所等との情報共有・情報連携の機会が増えたと感じていますか。



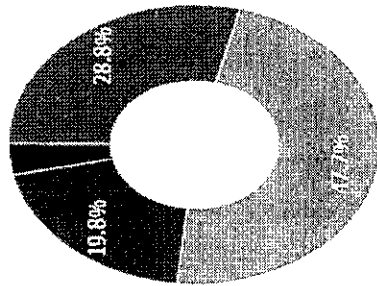
● とても感じている	43 (38.7%) >
● まあまあ感じている	53 (47.7%) >
● あまり感じていない	10 (9.0%) >
● 全く感じていない	2 (1.8%) >
● わからない	3 (2.7%) >

2 FINE-LINK PLUSを使ってみて、業務効率が上がった、改善したと感じていますか。



● とても感じている	35 (31.5%) >
● まあまあ感じている	55 (49.5%) >
● あまり感じていない	15 (13.5%) >
● 全く感じていない	3 (2.7%) >
● わからない	3 (2.7%) >

3 FINE-LINK PLUSを使ってみて、業務上、電話・FAX・郵送の件数は減りましたか。



● かなり減った	32 (28.8%) >
● まあまあ減った	53 (47.7%) >
● 変わらない	22 (19.8%) >
● わからない	4 (3.6%) >

4 FINE-LINK PLUSをどのように使っていますか。
(複数回答可)

1対1のメッセージのやり取り (1対1のトーク)	95 (85.6%) >
他の事業所と3人以上でのメッセージのやり取り (グループチャット・トークルーム)	41 (36.9%) >
資料、写真、動画等の情報共有	83 (74.8%) >
音声通話、ビデオ通話でのやり取り	11 (9.9%) >
地域の情報等の共有	27 (24.3%) >
アンケート	9 (8.1%) >
予定管理 (カレンダー機能)	1 (0.9%) >
タスク管理	0
その他	4 (3.6%) >

5 FINE-LINK PLUSを使って感じているメリットは何ですか。(複数回答可)

電話の入れ違いが減った	56 (50.5%) >
会費などの日程調整に役立った	50 (45.0%) >
情報共有がスムーズになった	84 (75.7%) >
時間効率が良くなった	46 (41.4%) >
紙代や通信費削減に役立った	37 (33.3%) >
その他	9 (8.1%) >

6 FINE-LINK PLUSを使ってみて、ご質問やお困りの点、○○のような機能があればいいなといった希望などがございましたらご記入ください。

「お気持ちに添います、スタンプが欲しい」
 印刷済みのスタンプが欲しい
 スマートフォンでも利用しているが、届が速いのに気が付かない事が多い。送事が遅くなる事が多い。
 料にありません

定額文書を作って送ってもらう機能がほしい。入力に時間がかかって送付が遅くなるのでは？と思っています。
 印刷済みの定額文書がほしい

メールを送っても宛先に届かない方が多いので、何かお知らせ機能がほしいと思っています。
 印刷済みの定額文書がほしい

集積の資料が送られるか、届て確認する為に届を印刷するので、紙が余計になるようになった。
 印刷済みの定額文書がほしい

送付料や送料などが安くならなくて印刷済みの定額文書を使うことが多くなっています。いつまでか手作業や印刷して欲しいという不満があります。
 印刷済みの定額文書がほしい

市外の配達業者につなげられら助かる。(郵便局)
 印刷済みの定額文書がほしい

・PCでメッセージ作成中の実行操作をEnterキーにしてほしい。確認済にしてほしい。
 ・グループ内で複数のチームが同時進行する場合には戻りやすい、分岐しやすい機能が欲しい。背景の色を変えたり、メッセージ内でタイトルなどを少し変更できるなど。
 印刷済みの定額文書がほしい

わけて連絡するほどでもないけれど質問やAI機能がなくなってきてもらえなくて助かっています。
 印刷済みの定額文書がほしい

印刷済みの定額文書がほしい

印刷済みの定額文書がほしい

印刷済みの定額文書がほしい

印刷済みの定額文書がほしい

印刷済みの定額文書がほしい

7 その他ご意見ございましたらご記入ください。

紙代が増えた
居宅介護支援

居宅介護支援
 入浴中のリハの様子動画、写真などリアルタイムで共有できて良い。会議の日程も、伝え間
 違いや聞き間違えもなく、履歴を見れば確認できるので役立っている。自分なりに最初よりは活用できていると思
 う。

病室・クリニック
 先日フラインク担当者と話す機会があり、不明な点や意見などお伝えさせていただきました。ありがとうございました。ありがと
 うございました。

居宅介護支援
 特におりません。

介護支援協議会
 閲覧するのが主で、自分から発信出来ていない

訪問看護・訪問リハビリテーション
 事務所で、1つの申し込みの場合、偶然にも、目的の人に届いているのから少なく、連絡もない時が困
 る。
 また、急ぎの報告の際は、電話対応をして欲しい箇所もあります。

特別支援老人ホーム
 退院前の入居者様の動画が見られるようになり助かっている。

居宅介護支援
 情報提供などしやすくなって、こちらも情報をお伝えしやすくなり、紙代もだいぶ削減になっています。

居宅介護支援
 便利になって助かっています。

居宅介護支援
 便利になったので良かったです

訪問リハビリテーション (デイケア)
 ここでの意見として適切ではないかもしれませんが市営自費運営でできればコスト削減になるのではと思います。

有料老人ホーム・ケアハウス
 居宅事業所と異なりそこまで外部とのやり取りが多くないので、入居申し込みを頂いた方の情報のやり取りや
 申込者の現在の状況などの確認をする際の電話の手間が減ったと感じました。

居宅介護支援
 特になし

居宅介護支援
 各個人にあると、便利に使えるが、今後、事業所で1つのアカウントになると、利用は減ると考える。

病室/病棟
 。

通所介護 (デイサービス)
 とても便利に活用させていただいております

居宅介護支援
 利用が終了、施設へ入所できなくなった方(グループプライムも含む)のアカウントは皆さんはどらされているの
 でしょうか？

訪問介護
 本利用になつて利用料が高くと利用継続させてもらえるか？今、無料でも利用させてもらって利用させていることに
 感謝。もともとには戻りませんが、利用料が発生したら利用を止められる事業所が出たら、また困るかも、やまほ
 りしの所のように全事業所が入ってくださっているから使用する意味があるのだと思うのですが。

地域包括支援センター
 今のところ特におりません。

居宅介護支援
 特におりません

グループホーム
 「機械に慣れるよう毎日触る」ことには心がけています。使いこなせるため、適宜研修があるので、受講した後は実
 際にやってみるようになっていきます。今後、研修を直し、お返し致します。

オレンジ・ランプ

貫地谷しほり 和田正人

伊勢元剛 山田義人 赤間麻理子 森井美和 中尾モユ

監製：三原光典 企画：阿部・ブーム・アース 山田義人 脚本：金杉敏子 音楽：尾崎雄
 『真珠：THE CHARM PARK』『セロファン』 製作：山田義人『オレンジ・ランプ』のスタッフが

39歳、パパが認知症!?

どうする、私!!

それは、温かな灯りが紡いだ感動の物語



若年性認知症と診断された丹野智文さんの実話をもとに描く、失却の希望と再生の物語。
 年齢を重ねていく全ての人へ、より良く生きるヒントがどこにもある。

制作：野中博司 脚本監修：池田英 演出：野中博司 監修：野中博司 監製：三原光典 企画：阿部・ブーム・アース 山田義人 脚本：金杉敏子 音楽：尾崎雄
 監督：三原光典 監製：阿部・ブーム・アース 山田義人 脚本：金杉敏子 音楽：尾崎雄
 制作：野中博司 監製：池田英 演出：野中博司 監修：野中博司 監製：三原光典 企画：阿部・ブーム・アース 山田義人 脚本：金杉敏子 音楽：尾崎雄
 ©2015 GAGA. All rights reserved. www.orange-lamp.com



6/30 日
GAGA★

＼ 知ることからはじめよう、脳の健康。 /

ブレインパフォーマンスのセルフチェック



デジタルツール

のうKNOW[®](ノウノウ)は「記憶する」「考える」「判断する」などの脳のパフォーマンスをチェックするツールです。

日々の生活をより充実させるための「ブレインパフォーマンス(脳の健康度)」が注目されています。仕事やスポーツで自分のパフォーマンスを意識するように、自身の脳のパフォーマンスについても考えてみませんか。

これは、「人生100年時代」を楽しく健康で暮らし続けるためにも大切です。まずは、できることから少しずつ始めてみましょう。

「私はまだまだ大丈夫!」と思っているあなたも、
「のうKNOW」(ノウノウ)で現在の脳の健康度をチェックしてみましょう。

デジタルツール

「のうKNOW」(ノウノウ)について

パソコン・タブレット・スマートフォンで4つのテストを行うことにより、あなたのブレインパフォーマンスを知ることができます。画面で表示されるトランプカードが自動的にめくられるので、「はい」か「いいえ」で答えて、チェックすることが可能です。

脳の反応速度チェック



カードがめくられたら「はい」を押すことで反応の速さをチェックします。

注意力チェック



カードが赤の場合は「はい」、黒の場合は「いいえ」を押すことで注意力をチェックします。

視覚学習チェック



表示されたカードが以前に出てきたものと同じかを答えることで視覚記憶力をチェックします。

記憶力チェック



めくられたカードが直前のものと同じかどうかをみることにより、一時的に必要な記憶の保持ができていないかをチェックします。

※画像はイメージです。

ここがポイント!

操作はカンタン!

- パソコン・タブレット・スマートフォンで手軽に実施!
- チェックにかかる時間は、約15分!
- 自分ひとりでチェックが可能!(セルフチェック)

豊富な実績

- 55か国以上で活用、100言語以上に対応!*
- 同年齢の平均と比べた、脳の健康度を確認!
- 定期的にチェックすれば、以前の結果と比較も可能!

*のうKNOW開発の基となったCogstate Brief Batteryにおける実績

疾病の予防や診断を目的としたものではなく、健康意識を高めるために行っていただくことを目的としています。

お問い合わせや「のうKNOW」(ノウノウ)について、詳しくは各企業や自治体、施設などの担当者へご連絡ください。



エーザイ株式会社

25

Powered by Cogstate